

# 「おんやりょう」

## 感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



何気なく知っていると、思っていた消防・救急の世界を、深く知ることができました。シリアスな内容を明るく、時にはコミカルに演じられていて、楽しく観られました。「木遣り」の音が素晴らしいかったです。

(演の会 菅谷恵子 70代)

人命が優先の中、消防士や救命士の葛藤がよくわかり、自分の命を顧みず本当にすばらしい仕事だとわかりました。仕事に誇りを持つことが、本当の仕事だと思いました。

(イヴ 金子雄一 40代)

皆さんの見事なセリフ回しで、自然に消防署の中を見ているような気分でした。(ワディ&ホライズン

磯野順子 60代)

セリフのテンポが良く、ユーモアが良かった。(パンプキン 狩野美奈 50代)

日々の出来事の中で、何か問題が出た時は、自分がどう動くのか考えさせられました。

(ハッピープリンス 田中弘之 60代)

消防のお仕事の大変さが良くわかりました。特に女性がこの分野で働き続けるのは、相当の覚悟が必要だと思いました。ラスト、良い掛け合い！参加できたようで幸せです。

(ラ・シーク 無記名 60代 女)

木遣り唄を聞けて得した気分でした。明るい気持ちになれる劇でした。(フージーと元気な仲間たち

西山麻弥 40代)

とても身近に感じた話でした。色々な細かい問題があるのがわかった。とても良かった。真摯に仕事に向かっている人に感謝を思いました。

(なでしこ 小出厚子 60代)

木遣りの素晴らしさに感動した。体の調子が悪く、やっと会場に来たがとっても良かった。

(三番瀬 鈴木千津子 80代)

とても感動的で良かったです。

(じんじん 無記名 女)

ステキなお芝居でした。会員である孫に観てほしいと思いました。ゆつくりパンフレットみて…。おんやりようはとても良い声でした。命の大切なギリギリの状況が想像できて、本当にお芝居を観たな！舞台上の別の世界に入り込んだような気持ちになり、色々考えさせられました。

(あひるの部屋 無記名 70代 女)

色々な問題を要領よく、ユーモアもちりばめて、とても良く出来ていたと思います。演者の力もそれぞれ良く、みんなに是非見せたい劇でした。

(あひるの部屋 伊藤千恵子 70代)

山さんと多田さんが話している時がめっちゃ頭に残りました！おんやりょうの唄がもっと出るかと思ったんですけど、1回だったので(お話の中)、それはそれで面白かったです。

(ガーベラ 奥田和佳 小学6年)

救急、消防の職業の事、知ったことたくさんありました。木遣り唄良かったです。(無記名 70代 女)

しみじみと面白く観ました。消防署の話ですが、現場を抱える多くの職場でも、このようなことがあるのではと思います。論争や対立、家庭や生活、恋の悩みなど、ありふれたことも、まじめな仕事への情熱や願いが基礎にあるので、充実した芝居になっていると思いました。ありがとうございます。終了後のキヤストの話も楽しかったです。

(ハッピープリンス 春日井治)

壁に貼ってあった消防車の絵が可愛らしかった。お菓子の件も面白かった。隊員同士の掛け合いから、彼らの人となりや人生が見え、それらが消防署の雰囲気を作っていた。もう少し話の展開があると良かった。

(亜童夢 神原健人 高校3年)

私のデスクはどこだったのでしょうか。自分が舞台上で、皆さんのセリフをきよるきよる聞いて、心にとめていたようです。(パンプキン 輿水 70代 女)

会報にあった「おんやりよう」の意味は自分には良く分からず、劇が始まりました。木遣りの唄を聞いても、響きは伝わりませんが意味は??です。

後半の消防署内の雰囲気と、ラストの前日の夕食で作り残った豚汁にうどんを入れて、翌朝、24時間勤務を終える段階でスタッフみんな食べ始める所で終了していたのを見て、自然と嬉しくなりました。この作品に出会った事が心の内側でバンザイです。

何をつかんだのかはうまく表現できていませんが、嬉しいです。ありのままの姿を伝えてくれてありがとう!と出演者の方々と、劇団の方々に伝えたいです。(効果音の決まり方とピピッと連携しているだろう:観客には見えないう所がとてもグッドに感じ入りました。)

(ユミ丸 Y・K 70代 女)

救命と消防のそれぞれの言い分を自然に言い合えていて、他でもある様な立場の違い、それでも意見を言い合えること、とても自然な演技で、観終わった後何とも言えない感動を味わいました。話を交へていくのではなく、とても素直な気持ちで観られました。ありがとうございました。

(無記名 60代 女)

消防団の日常の活躍、大変さがにじみ出ていて良かったです。木遣りも声がすばらしく良かったです。

(岡田幸子 70代)

一人一人の個性がわかりやすく、セリフも聴きやすく、日常の中のさり気ないことが大切に感じられました。そして、終わり方もとても良かったです。

(ハイン 中川奈津子 60代)

消防・救命、大事な話が多くセリフをテンポ良く演じられて、とても気持ちが良い作品でした。

(ワディ&ホライズン

磯野吉哉 60代)

具体的な話でわかりやすかったが、何を伝えたいか、インパクトがなかった。

(じんじん 小笠原 70代 女)

現代の内容で面白かった。あまり詳しくない職業だったが、2つの仕事人との葛藤や衝突が心を震わせた。

シリアスな場面と、おふざけの場面のバランスが良く引き込まれた。途中のおんやりのような唄も素晴らしくて、そこだけでも行った価値があったと思う。1人で歌っている時も迫力が凄かったけれど、最後に皆で歌うところはより力強く、重厚感があつた。

次はどんな職業かを先に調べておくと、より楽しめると思った。また観たい。

(花いかだ 吉田葵 高校2年)

めっちゃくちゃいい声でした。女性の仕事のあり方も考えられるような演劇でした。ありがとうございました!

(サモトラケのニケ 亀田智恵 20代)

私は今回の劇を観て、消防の事について詳しく知らなかったから、「なんにも知らない自分が見て楽しめるのかな:」と不安になっていました。消防の中にも救命士と一般消防士の間で、色々な問題をそれぞれ抱えながら、一つ一つの業務をこなしていたので、その姿が本当に凄いなと思いました。人助けが日常になっていて、仕事にそれぞれが自分なりに情熱を燃やして頑張っていたし、懸命に働いているのを見て、好きな仕事に就けても、慣れないことが沢山あつて、辛い事もあるはずなのに、それでも互いに指摘をしあつて成長をさせ合っている姿が素敵だなと思います。

「AED」というものが今の日常で当たり前のようになっていますが、充分に使用できないようになっていても状況を見て、瞬時に判断して対応しているから、「自分だったらこんな瞬時に対応できないし、焦ってパニックで間違つた対応してしまうんだろうな」と考えてしまいました。この仕事は「人の命を左右させる仕事」と自分の中では認識しているので、精神的にも身体的にも苦しい中で、やり続けなきゃいけないというのは、自分は絶対に耐えられないなと思いました。作品の中には過去の事をトラウマで引きずりながら必死に働いている人も居たので、色々なタイプの人が居て、すれ違いやずっと思っていた事を吐き出して、けんか等も起きてしまう事もあるんだなと思いました。この仕事は

普段の事件の他に、災害時にも多忙な時間の中で沢山の人を助け続けているのが想像できないくらい大変だし、苦しい事なのかとずっと思っているから、消防で働いている人は自分が想像している以上に大変で、やりがいのある仕事なんだと感じました。この職に限らず、どの職も気の合う人や合わない人と様々な人と出会う中で、けんかし合ったりしながら、自分なりに頑張りがら「大変だけど楽しむ」というのを目標にやっていくのが一番なのかな:と思います。

(フージーと元気な仲間たち

新井菜々美 高校3年)

消防署の人たちの一日というお話でしたが、消火活動や救助活動に命がけで向い、適切な処置をすることを一日一日行っていることを、改めてすごいなと思いました。救命をする中で、仲間同士ぶつかり合うのも仕方がないなと思いました。その仲間同士がぶつかり合う緊張した場面を作り出したり、人が怒る時の動作や話し方、消防署の仲間たちが仲良く話している様子などがとても自然で、自分も消防署にみんなというような気分になり、すごいなと思いました。

小林さんの「おんやりよう」の声が、マイクなどを使わずに劇場に大きく響いていて、すごいなと驚きました。

(フージーと元気な仲間たち

鍛冶屋ひな 高校3年)

朗々たる木遣り唄には全く驚かされた。まさに、「さあ、いくぞ」と云う気持ちで掻き立てられ、一挙に芝居の世界に引き込まれた。消防署の“はなし”でありながら、主役は火災ではなく、救急救命士の日常的な生活であったのが新鮮で好感が持てた。

そんな中で、消防士の使命感や危険を省り見ない情熱がとりわけ心を打ち、後々迄残る強い印象を残した。「人間の存在意義」や「人間の情熱の高さ」を改めて深く考えさせられる一作であった。情熱は究極すれば芸術と一体化するという好例であろう。

(じゃんけん 糠澤尚夫 80代)

消防の方々の日常が、よくかかれていてすばりかったです。私も消防でアルバイトをした事があり、本当によく取材されている内容だなと思いました。救急で、大した事がなくても、出動される消防の人々、本当に頭が下がります。自分自身を守りながら、他人のために頑張っている方々を思うと、本当に素晴らしいです。キャストの方々も本当に適役で、また違う作品を観たいです。ありがとうございます。

(パン・パスグラス 遠藤竜子 60代)

「おんやりよう」という、みんなで作業する時に歌う、歌った後けんかしてしまいうけど、終わりに近づいていくにつれ、和解していくのが面白かったです。

(ガーベラ 奥田和誠 中学3年)

これまでいくつも劇をみてきたけれど、場所が一定で場面の切り替わりの時間が数時間単位で、2日間を詳しく描いた劇を観るのは初めてで、とても不思議な感じで面白かった。私の祖母も、面白くて初めて一回も寝なかったと言っていた。また、私はこの作品を観て、知らない所でも事故や事件が起きている、それを助けてくれる人がいることがわかった。そして、お互いに尊重し合いながら仕事をするのが大切だと思った。私は、三浦君の「ありがとうございます」を「あざっす」と言ったり、日報に「みんなと一緒に楽しかった」と書いてあったり、マドレーヌの数をしつかり数え、一人何個までと決めたり、食事のことだけうるさいなどの動きなどが、突っ込みどころ満載でとても面白かった。だけど、根はいい奴でなんか憎めなかった。また、三浦君とその同期の子が腕相撲をしている所で、どちらが勝ったのか気になった。個人的には、同期の子に勝ってほしい。

(ゲキ友 安東青香 中学3年)

とても良かったです。

(サーモスタット 脇田智恵子 70代)

・この職場に於いても、職務を果たすために真剣に日々、取り組んでいると感じました。・特に、本日の消防署という場面設定であったことから、尚更に臨場感があった。

(笑 安井和恵 70代)

木遣り唄がとても良かったです。表情の細かな変化が良く分かり、心を動かされました。

(ハイネ 鈴木るり子 70代)

消防士的一天は大変だと初めて知りました。

(子育てネット 後藤つばめ 小学5年)

ひさしぶりに新劇的な上演を見たような気がした。築地小劇場出身の村山知義の流れにある東京芸術座の上演は、予期した通り、社会的な理想と、リアリズムのセリフ劇・対話劇を踏襲した。さわやかであった。舞台は東京ではないどこか地方と設定されている。

だが、劇が始まると同時に、隊長をリーダーに朝の消防隊の会話が始まる。隊員達のきつぱりした応対と直立の朝の挨拶の姿勢が印象に残った。他方、彼らの会話のうちに観客は理解し始める。彼ら消防隊は農業と兼業ではあるが、すでに組織化され、活躍中であること、さらに隊は消防士と救命士とに分かれていることである。

すなわち、彼らはよりすぐれた、理想の救急隊を作ろうと努力しているらしい。確かに、消防隊は消防車と救急車を共に発進させる。双方、助ける者も助けられる者も、生きるか死ぬかの瀬戸際に立たされる事も多いだろう。彼らは庶民には英雄である。

だが、劇はそんな気負いを見せず、淡々と彼らの人間としてのセリフを重

ねて行く。普段はあまり脚光を浴びることの少ない消防士を劇に取り上げたことは、本劇のすぐれた評価である。また一方、本筋とからみあいながらも本筋ではない形で示されたが私が気づいたことが二つある。

(1)救命員、消防士を希望する女性を登場させていること、(2)本劇初演の作者・演出家が女性(内藤裕子)であり、また千葉県船橋市民文化ホールでの上演のリーダーは女性が多かったことである。―舞台監督はたかのきよこ、制作は嶋田みどり。そして劇中では、女性救命士の恋愛と結婚問題が示される。

彼女(さとうゆい)は若い隊員の結婚の申し出にははつきりした答えを出さず、最後まで救命士として生きることを希望し続ける。劇の終わりは彼女にライトを当てた。働く女性の結婚問題、これは、筋としては脇筋に過ぎないが、初演時にはかなり新しいテーマであったと推察される。

以上は、当時も今も、当劇制作と上演にかかわった女性陣の、もうひとつの社会的な女性進出への願いをとどめた意図であったと理解したい。なお、最後の、民謡的に謡われるおんやりよの謡は見事であった。リアリズム演劇に芸術性を付け加え、今の時代を江戸の火消しに結びつけた。つややかな声で叫ばれる民謡。芸術性と現代性が輝いた。

(ここの葉 水崎野里子 70代)

期待しないで観に来たのですが、救急車の実態と、その中で働く人の様子がよくわかり、とても面白かったです。

救急車に2回乗った事がありますが、隊員の方の心意気が伝わってきました。これからも頑張ってください。

(フェローシップ 無記名 70代 女)

消防署の様子が、このお芝居を通してよくわかりました。専門用語が出て来たけれど、何とか少しずつ理解出来ました。何より、テンポの良いお芝居でとても楽しめました。ありがとうございます。

(KISS3 弘重三枝子 60代)

おんやりよりの言葉が何のことかわからないままです。消防の人助けに一生懸命な女性に感じます。このような女性はいっぱいいると思います。若い人たちに、その生き方を皆に知らせてほしいです。

(山彦 田村 70代)

特殊な職業の人たちを演じられて、色々大変なことあると思います。見ているこちらは本当にその世界で働く人たちの日常を見ているような、不思議な感覚になりました。人の心の動きが感じられ、とても面白く考えさせられました。「おんやりよう」が本編で、もう一回くらい出てくるかと思っていたので、ラストはちよつとあつさりかなとも思いましたが、でも良かったです。

(無記名)

消防署はなくてはならないとは思っているけれど、最近火事も少ないし、暇な仕事だと思ふ反面、いざ現場に赴くことは命懸けで大変なことだろうな、くらいに安易に思っていた。

けれど、おつとどつこい、けつこう守備範囲がひろく、安心して庶民が生活していくのに欠かせない責任ある大事な仕事であることを、この「おんやりよう」という初めて聞く言葉の芝居で知った次第。そういえば、10数年前に小生も怪我をして救急車に乗せられたことがあったことを思い出した。

ただ、幕開けから終幕まで場面に變化が乏しく、会話だけで話を進めていくのに観客は眠気を催さないだろうか。もと消防士とかいう初老のお爺さんの木遣りの透きとおる美声が、頭の芯を清々しく通り抜けていき、初めて聴くその素晴らしい肉声に感じ入ったが、これを工夫して所々で聞かせてくれると、眠気を催すところに眠らずに芝居にのめりこめるような気がするけれど、脚本を読んでいないが、いかがなものか。

ふな演での東京芸術座公演は7年前の「蟹工船」以来だが、併せて思うに、人生にまつすぐ取り組む人たちの話を、観客に清々しく物事を考えさせる舞台に仕上げて見せてくれる劇団だと知った。

蛇足だが、遅ればせながらあらためて「村山知義自叙伝」でも読んでみようと思う。

(マゴメ ムラタ)

“おんやりよう”とは何だろう？と事前配布資料も読まずに参加して、江戸木遣り唄に一本々と会場を一つにする唄声に魅了されました。

地域の防災、そして緊急医療の日常を舞台にする時、あるある！わかる！とひざ打つ場面の多い事(笑)。知識の大切さと、誰でもいつでもお互いに助け合える存在なのだと感動して、シナリオに敬意を表します。

P.S. パンフレットには、東京石神井の消防署見学や、実際の消防士さんたちの一日の流れや、救命士さんの資格が載っていました！(良い芝居の訳だね！)(ナイス、Z 善木しのぶ 60代)

座席がラッキーで、よく聞こえ、観ていて身近な問題であり、舞台劇が十分楽しめた。笑えたり、消防や救急の苦労を感じ、感謝を改めて思えた良い作品だった。

(じんじん 無記名 70代 女)

今回の劇の「おんやりよう」は、とても面白く素晴らしい作品でした。

(ワディ&ホライズン

向後拓海 高校2年)

おんやりようというタイトルが、木遣り唄のセリフだったということに驚きました。素晴らしい木遣り唄で、最後まで楽しませていただきました。ありがとうございます。

(演奏2784 中川昌子 60代)

1人1人の役がよくはまっていて、職場のチームワークも良く出ていて、演劇を見ているという感じが全くせず、職場の一場面を見ている感じでした。

(原島 70代 女)

楽しかったです。(ベリーズ 成沢恵子)

最近テレビで観たドラマを思い浮かべながら観ていました。命と向き合う厳しい職場でも、普通の職場と同じ人間関係の営みがあり悩みがあり、それらを、笑いを織り混ぜながら浮き彫りにしてくれました。観終わったあとに様々な余韻が残る、「さあ、明日も笑顔でがんばろう」という気持ちになりました。ありがとうございます。

(亜童夢 伊澤輝美)

## おめでとうございます！

### 「おんやりよう」サイン色紙当選者

- 1326 じんじん 小笠原幸子さん  
1402 パンプキン 狩野美奈さん  
2324 ワディ&ホライズン 磯野順子さん

※当選した方は申し出てください。



アンケート枚数 49枚	(回収率3.4%)
当日会員数 1,771名	
例会参加者 1,459名	(参加率82.4%)